

ました。私共は居ても立てても居られずせめて御面會は成らずも蔭にて御伺ひ申さんご二三の者ご御見舞致したら是非會ふこの事で御見に掛りましたが衰弱甚だしくお口も常の様になく實に哀しき御様子に見うけました。果せるかな翌日遂に御他界になりました。

先生は園の爲め幾多の思を胸に納め、又御家庭ごしては御子様は少く、思へば先生は萬感の思ひにてなやみに々永眠せられたる事を思へば胸が一ばいに成り止めごもなく涙が出ておさへるごことが出来なかつたのです。此の師の君に幸なき事は残念に思ひました。然し今は幼児保育に至ては世界的良師の倉橋先生が御出に成り保姆の養成に御盡しくくださいますから關先生も地下に於て定めし暝福せられたるごご信じます。

關先生の功績を思ひて私共心ばかりの碑を建てました。形はフレール先生のお碑の如く、立方體圓柱體圓體を組合せたものを谷中のお寺に建てました。



保育實習科第二回卒業生(明治三十年頃)

山 口 政 子

今年十一月二十九日開校第五十八回の記念式を舉げられましたお茶の水女子高等師範學校は去る大震災のためごのなつかしい名のお茶の水幼稚園は愈々本年末二十四日のお集りを終りごして大塚の新園舎にお引移りになるご云ふ。園舎の壯麗ご設備の完全なる此新園舎に新年をお迎へ遊ばす諸先生方又は幼児の皆様の御芽出度御移轉を御祝福申上げ度ご存じます。

しかしながら凡てのもの運び終られてきて空虚な園舎に終りを告げられて一步一步園舎に遠ざかりゆかれる時の御淋しさを深くも偲はれる御事でせうご存じます。かゝる折古き思ひ出を送れごのお言葉でありました。けれども四十年の昔

をたざりますには餘りにもおほろけでありますが不充分の點はおゆるし頂きまして一つ二つ思ひ浮べて見る事に致しました。

入學の出發を致しましては、四國の一隅徳島縣に小學校訓導をして職を奉じて居りました私は、常に東都の遊學を希望して居つた折柄、ある朝の新聞に女子高等師範學校保母練習生募集の廣告があつた。夫は明治二十九年九月六日の事であつた。願書は十日迄云ふ事なので急ぎ母の許しを得、縣廳からの總ての手續きをお願ひした。しかし當時縣の方々は幼稚園の實際に就て餘りにも不案内であられたから卒業後の結果に付て安心する程度でなく私も又一度も保育の參觀をした經驗もなく不安の點もあつたけれども縣のお力添へを頂き昭和の今日も二三日を費す郵書を其頃交通の不便の折柄果して規定の十日に學校へ届くかきうか氣患ひであつた。けれど九月の八日には四國から遠く東都へも願書を送つた。一方奉職の學校では東京の試験の結果が未定のため失敗の場合をお察し下さつて休職の手續を採つた云ふ事を上京後に耳にした。

愈々九月十一日果して入學するや否や不安の念にかられながら友達知人に見送られて出發した。その時知人から饒別にしておくれたものに

咲きはえて都にかほれ菊の花

云ふはけましの言葉もあつた。

現今では千七百噸級の汽船の通ふ航路もその昔は僅に二三百噸の小舟に生命を托して鳴門の潮流を横切つたり由良海峡の荒浪を乗越す苦勞もあつた。又東京神戸間の鐵路も今では八時間云ふ交通の便利もありますが其頃は日清戦争後の關係もあつて二十時間もかゝつた感じがいたします。

十三日汽車は名にのみ聞いた新橋驛に著いた。願書は無事に届きまして十五六兩日試験を受ける事となつた。この試験

の朝國を同じうする坪内きく子さんが突然姿を見せた。坪内さんは私の奉職學校に數丁離れた同じ町の小學校に奉職し同じ役所の手を經、同じく休職になつて上京したにもかゝらず今こゝで出逢つた事は嬉しくもあり又驚きでもあつた。

受験は體格検査口頭試問其他豫定の順序を經て九月二十日入學許可の御通知を受けた。私のため入學を祈つて下さつた故郷の母及友人知人に通知する事の幸を得遠く上京した目的も達しられかくして第一回練習生として入學を許された。

其人員は十五名、内二人は病氣其他の理由で退學十三名であつた。府縣別に申しますと

東京四 四國三 大阪一 兵庫縣一

長野縣一 石川縣一 岡山縣一 九州一

以上十三名

當時の先生を思ひ起しますと

校長秋月新太郎先生 學監 中川謙二郎先生

南摩網紀先生 奥好義先生

坪井玄道先生 新莊先生

竹村千佐子先生 主事 大久保介壽先生

又保育の御擔任先生として

下田たつ子先生 吉田幸子先生

吉村千鶴子先生 里村なを子先生

神門もこ子先生 梶原銚先生

先生方は田舎ものゝ萬づに不馴れな行届かないものをやさしくもお導き下さいまして日に月に幼稚園を了解し楽しく保育の道にいそしむ事の出來ました事は私達に取りまして仕合せな事でありました。

當時の幼稚園は今日の保育室を開誘室と名づけて居りました。組の名は一二三と云ふ數字で呼び私は二の組を香川縣の前田リエ子さんと二人で擔任神門先生の御指導を受けました。神門先生は私の卒業後間もなく支那駐在瀨川領事の夫人として御退職幾年もたゝぬ内に彼の地に於て逝去遊ばされました事も思ひ出の一つであります。

其頃の保育項目は十二月號に御掲載と大同小異でありますから省きました。

入學當時は皆日本髪が多かつたが入學後次第に束髪に變つていつた。服装は袴もつけなければ羽織又は帶姿であつた。質素を主として絹ものは可成遠慮する様、羽織の丈の寸法なごも餘り長からぬ様注意する事、又學校に於てある用務のため歸宅のおくれる場合なごは一々通信簿に其理由を明記し保證人の捺印を求め方法であつた。生徒は必ず保證人の宅に寄寓する御規則であつた。

在學當時のお茶の水は正門を入るさすぐ右の方に板塀があつた、夫は男子師範との界であつて今の様に廣くはなかつた。幼稚園の前には大きな池があつて鯉が澤山居つた。幼児はいつも麩をやつてよろこんだ。女學校や小學校の生徒さんが紫の長い袂に赤い帶をしめた美しい姿で池のほとり橋のゆきゝなごは迎も優美であつた。この頃お茶の水は華族様や富豪の御家庭の方が多かつたので門内は毎日幾百臺と云ふ人力車や馬車が供まをするために一杯であつた。

在學中最も畏れ多き御事は三十年の春の英照皇太后様の御崩御であつた。一同業を休み悼み奉つた。

又嬉しかつた事は坪井先生の體操の時間にふご教授を中止され今丁度聖上陛下大學校へ御行幸のため裏門御通過の時刻となつた急ぎ裏門にて謹み拜すべしと仰せられた。一同先生の御仁慈を謝し裏門にて拜する事の出來ました事は田舎の私に取りまして嬉しき極みであつた。

在學中の東京市中は唯品川八つ山から淺草雷門へ通ふ一筋の二頭曳馬車と人力車のみであつた。私達學生は道の遠近にかゝはらず徒歩が唯一のもので今日の便利な乗もので通學されます皆様方はお合せだと思ふ。

かくする内に三十年十月を迎へ豫定通り第一回卒業生として盛大に卒業式を舉行され愈々幼稚園の職員として世に立つ事となつた。

卒業生は京都師範岡山師範濱松幼稚園へ、八田寧子さん私は大阪へ赴任、坪内稻石のふたりはお茶の水に残り、或は九州へ横須賀へ奉職した。明治三十年より昭和七年まで四十年近くなつた。嘗て入學當時卒業後は永くこの道のために盡しませうと大久保先生にお約束したのであつたがこの永い歲月保育の庭で過しました事は先生へのお約束を幾分盡す事が出来ました事を嬉しく存じます。拾三人の卒業生の内次第に音信不通となりたるも卒業以後今尚この道をたぎつて居る人は東京の和田くら子さん横須賀の福本さん夫に私の三人である。最近まで名古屋の坪内きくさんが第一幼稚園に居られたが病ひのために退職された事は残念であつた。同じ卒業者の中もお茶の水に近い場所に住むために他の人達に較べて母校の門をくゞる事も数多かつた。夫丈に先生方の御指導を頂く事も深く今月を限りお茶の水お引移りに際しまして數多く出入も繁かつたために一入思ひ出も深く偲べながら芽出度御移轉を御祝ひ申上げ非常な御繁忙であらせられた諸先生の方々の御疲れを御厭ひ遊ばされます事を切に念じまして筆をおく事に致しました。

明治三十五年から同三十八年まで在園

桂 和 歌 子

今日計らずも御依頼を受け、文才に恵まれぬ私が、在園當時の回顧を認めます事になりました誠に困却する次第でございます。しかし御縁故の深い幼稚園の事でございますから、兎も角思ひ浮ぶまゝを唯書きつらねて見る事に致します。

昔は應募者の少かつた爲か今のやうに入園がむづかしくなく、私の兄弟七人も此幼稚園の御世話になり、今より三十年前、末の子の私まで、御厄介になる事になりました。丁度五歳の四月でございます。其頃は一ノ組、二ノ組、三ノ組と申